

										昭 20	昭 15	年 月 日	豊原聯隊区司令部略歴
10	10	9	9	8	8	8	8	5	10	概 要			
20	5	13	12	23	20	15	9	1	1		摘 要		
豊原において編成完結 爾后同地において兵事業務実施 編成改正後も引続き前業務を続行 開戦時の爆撃に備え各課を豊原市内に分散配置 日「ソ」開戦 停戦 下士官兵及び軍属を現地召集解除 武装解除 豊原中学校に收容 大泊に移動 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」 司令官 少将 柳 勇													

							昭	年 月 日	豊原地区司令部略歴
							20		
10	10	9	8	8	8	4			
20	5	13	23	15	9	22			
							豊原において豊原聯隊区司令部の人員を主体として編成完結	概 要	
							爾后樺太地区の防衛業務に従事		
							日「ソ」開戦	摘 要	
							停戦		
							豊原において武装解除		
							大泊に移動		
							大泊第五作業大隊に編入		
							大泊出發入「ソ」		
							司令官 少将 柳 勇		

2067

昭			昭	年	月	日	概	要	摘
20			16						
5	4	3	8						
1	1	16	1						
<p>軍令陸甲第四六号により憲兵司令部、憲兵隊等臨時編成下令 編成完結、樺太地区憲兵隊と改称</p> <p>上敷香特設憲兵隊（第五分隊）を隷下に編入</p> <p>本部を豊原に置き大泊、上敷香、恵須取、落合に分駐</p>			<p>昭和十六年軍令陸乙第二二号により豊原において編成完結 各隊を次の如く配置しそれぞれ分遣隊及分駐所を設く</p> <p>本部（豊原） 留多が分駐所</p> <p>豊原分隊</p> <p>大泊分隊 富内分駐所</p> <p>上敷香分隊 敷香、内路、知取分駐所</p> <p>気屯分隊 古屯、浅瀬分駐所</p> <p>恵須取分隊 西柵丹分遣隊、安別分駐所</p> <p>落合分隊 泊居、栄浜分駐所</p> <p>真岡分隊 逢坂分駐所</p>						

樺太憲兵隊（樺太地区憲兵隊）略歴

		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自			
10	10	10	8	11	10	11	9	11	9	8	8	8	8	8	8
22	20	5	24	16	27	13	21	12	10	23	20	15	13	9	9
隊長 少佐 白瀬 宏		入「ソ」		大泊分隊		豊原出発		豊原第九（旧第四）第五作業大隊に編入		豊原において武装解除		ごろままでに大泊分隊を除く外豊原の部隊本部に合流		停戦	
		大泊出発		大泊において武装解体						各分隊とも各駐屯地付近において戦闘に参加		日「ソ」開戦		上敷香に移動したものである。	
		大泊出発		大泊において武装解体										〔上敷香特設憲兵隊（第五分隊）は昭和十八年八月一日憲兵司令官直轄として上敷香に設置され昭和十九年六月二十三日東京に転進し再度昭和二十年五月	

2069

昭 19	昭 18	年	樺太特務機関（ <small>北方軍情報部樺太支部</small> 第五方面軍情報部樺太支部）略歴
3 2	8 7	月	
27 18	19 22	日	
軍令陸甲第七二号により北方軍情報部臨時編成下令 編成完了		概	要
部隊本部を北海道におき北方軍情報部樺太支部を大泊に設置 次の如く部隊を配置し情報の収集に従事 本部（大泊）長 小佐 蟹 江 元 敷 香 支 所 長 大 尉 橋 本 豊 富 気 屯 支 所 長 中 尉 小 関 勝 彦 恵 須 取 支 所 長 大 尉 森 正 之 西 柵 丹 支 所 長 曹 長 南 部 吉 正 名 好 支 所 長 嘱 託 大 久 保 彌 八 沢 内 支 所 長 曹 長 福 永 隆 行 軍令陸甲第二〇号により第五方面軍司令部臨時編成ならびに北方軍情報部復帰 下令 編成ならびに復帰完結と同時に北方軍情報部樺太支部は第五方面軍情報部と改称		要	

2070

						昭 20
	10	10	9	8	8	8
	20	5	1	23	15	9
	<p>日「ソ」開戦 敷香、気屯、恵須取部隊は大泊の本部に集結、その他の地区のものは部隊解散 武装解除 母校は豊原警察署に准士官以下は豊原中学校に收容され「ソ」軍の取調べ開始 有罪となつたものは豊原刑務所に收容さる。 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」</p>					

2071

				昭			昭	年 月 日	概 要	摘 要
				20	16	14	14			
8	8	8	8	4	8	7	2			
18	17	15	8		6	22	11	<p>樺太上敷香において編成完結</p> <p>内科病棟(二) 外科病棟(二)</p> <p>伝染病管理室</p> <p>母校約二〇名下士官長約三〇〇名看護婦約九〇名計人員約四一〇名</p> <p>爾後同地において各隊の患者の收容、療養、衛生兵の教育を実施</p> <p>軍令陸甲第三五号により臨時編成下令(改編)</p> <p>編成完結</p> <p>豊原に分院を開設</p> <p>分院長 中尉 岩佐博以下約三〇名</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>日「ソ」開戦により軽患者は原隊に復帰せしめ病院全部豊原に移転の準備開始</p> <p>停戦</p> <p>転営のため上敷香出發</p> <p>豊原着、同地第五国民学校に病院開設</p>		

2072

				昭 20
	10	10	9 8	8
	20	5	13 27	28
<p>衛生兵の一部及看護婦を解除 豊原において武装解体 病院長以下職員約三〇名を残置し(残置者は引続き豊原病院の業務を続行) 他は 豊原出發同日大泊着 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」 豊原病院の残置者は昭和二十年十二月八日まで同病院において勤務後分散行動 をした。</p> <p>院長 軍医 大佐 菅田 瀧</p>				

						昭 16	年		
						8	月		
						1	日		
		10	9	8	8	8	5	8	
		20	20	30	15	9			
<p>樺太落合において編成完結</p> <p>第一飛行師団長の隷下に属し爾後同師団隷下各部隊の患者を收容した。</p> <p>第一飛行師団長の隷下を脱し第八八師団長の隷下に入る。</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>開戦後前線部隊の患者多数を收容</p> <p>停戦</p> <p>停線により下士官兵軍属及軽患者を現地において召集解除</p> <p>その他の者は豊原に移動し同地武装解除</p> <p>大泊に移動、同日大泊第六作業大隊に編入</p> <p>大泊出発入「ソ」</p> <p>病院長 軍医少佐 大草重之</p>								概	要
								摘	要

落合陸軍病院略歴

2074